

アドラー心理学で「子どものやる気」を引き出す本

お腹の中にいる子供にどの親も元気に生まれてきてね。ママはそれだけで十分よと声をかけるだろう。私自身も実際それだけを願っていた我が子も、現在は7歳、3歳、0歳2ヶ月になった。

小学生になった娘に対して私は、youtubeばかり見ないの

ピアノの練習やりなさい 今日のワークやった？とやりなさいばかり。

3歳の息子には、お片付けしなさい！！

に対して末っ子には

こんなにうんち出たのーすごいね。

よだれいっぱい出るようになったね。すごいなー

泣くとよよし泣かなくていいよー良い子良い子！！

あれ、末っ子には褒めてばかりの毎日に対して、上の子にはやりなさい、しまいなさい、ダメばかりになっていた。

母親にやりなさいと言われた子供達はそのときはピアノの練習もするしおもちゃもしまう。

しかし、それは自分がやろうと決めてやったことではないため継続はしない。

むしろ今やろうと思っていたと反発心を持つだろう。

小学生のとき私も親からやりなさい、朝は早く起なさいと言われるのが嫌だった。

今起きるつもりだったと反発していた。

現在親である私自身がこどものやる気を奪っていた。

子供自身が、自分でやらなければいけない事を選択し、やれば行動に責任をもち実際にやる気になり自信にもつながるだろう。

そのやる気を上手に引き出してあげること、褒めてあげることが親の愛情だ。

これは子育てだけでなく、社会において部下を指導するときも同じである。

〇〇をやりなさいという上司に対して命令されると、素直に受け取りやる部下と、反発心をもつ部下がないか。

なぜそれをやるのか明確な目標や理由付がないと、受け入れられない。

また部下自身が自分からやるように仕向けないとその仕事にプライドも責任も持たないだろう。

子育て中の母であれば我が子が今日は何をしたのか知りたくて自然と学校楽しかった？保育園ではだれとあそんだの？と子供達と沢山会話をする。

その中で沢山褒めることもあれば、小学生の娘は今日のちょっと嫌だったこともママに話してくれるため、その時はどうしたらいいのか一緒に考えてあげられる。

社会においても部下に対して、上司が興味を持ち普段から会話をするのが重要だと思う

会話をする事で部下は上司が自分を気にかけてくれていると感じるだろう

また上司も部下の事が分かり、部下のモチベーションを上げることができるだろう

部下は目標を達成することで達成感を感じ、仕事をもっと好きになったりやる気がでるだろう。

上司は感謝されることでまた自分の役割に対して責任と自信がつき、自分を好きになる。

まだ私は7年目の母親で未熟である。

子供のママが好き、美味しご飯ありがとうと感謝を伝えてくれることで毎日頑張れるし、子供が親としての私を成長させてくれている。

子供のやる気、部下のやる気は子育てする親次第、上司次第で、やる気を奪うことも伸ばすことも出来る。

私は最大限に伸ばしたい。

アドラー心理学で「子どものやる気」を引き出す本

私の尊敬する人に、私からすればだいぶ型破りの人がいる。この本を読んでまずその人が思い浮かんだ。彼は彼の世界を持っていて、そして自信に満ち溢れていた。その彼によく言われた言葉がある。何でも前向きに考えろ、自分がやってやった！と言えるようにしろ。彼からしたら私は「非常に生き辛そう」とのこと。でもこの本を読んで彼のあの言葉が理解できたような気がした。

私はあまり心から自分を褒めたことがない。みんなができて当たり前ができないことが多かった。なのでいままで自分の中で何かいい結果を残したことがないと思っていた。何をやっても続かないのは自他共に認められていたし、小学校の絵日記も3日と続いたこともない。あなたは何をやってもどうせ続かないと言われ挫折したことも何度もある。いつからか、私にはできないと思いつくことが多くなり、それが当たり前だった。生きてると、できないのにやらなければいけないことが多い、みんなはできるのに私はできない。生きるのはなんて大変なんだろうと思っていた。

他人と比べる中で、ある日1人のゲストの対応をした。解約希望だった。解約して他社で携帯を持ちたいとのお話で、修理ももうできない機種だし、スマホが普及していてガラケーを手放すしかないとおっしゃった。私はふと、まだ使えますよ、電源も入るし電話もできますし、長く使っていただいています。外装も綺麗です。とそんなことを答えたところ、ゲストがとても驚いていた。話を聞けば、いろんなショップを回ったけれど修理もできない、ガラケーは売っていない、スマホしかない、機種変更してください、と言われ続けていたのに、初めてまだこの機種を使うことを話題にしてくれたと話してくださいました。ショップで嫌な思いをしたこともあり、キャリアも変えたいと思っていたけれど、あなたがいるならまだ解約しない。とおっしゃって笑顔で退店された。私は泣きそうになるほど嬉しかった。こんなにも私の仕事を肯定されたことはないのではないかと思うくらい嬉しかった。そのゲストのおかげで私は店頭に立てていると思うこともある。

落ち込んでいるときに言われたことがある。辛いとかどうか、感情は自分が決めることで、他人と比べてどうこうじゃないんだと。私は、はっとした。自分の思いや感情までも他人と比べていたのかと。自分自信の物差しを持つことは非常に重要だが、しかしそこに甘えてはいけない。自分を肯定し、もっと自分の物差しを長くできるようにしていきたい。自分が生き辛いのは、自分の世界が狭いからだ、今になって私は思う。この仕事はたくさんの人と出会う仕事なのだから、そこからもっと色んなことを吸収して1歩を踏み出そうと思う。自分を肯定できるような、そんな仕事をこれからも続けていきたい。